

和歌山：“志”への想いと“モチベーター”としての役割

～退任にあたって～

(一財)和歌山社会経済研究所
前常務理事 木下 雅夫

いきなり私事で恐縮ですが、私は今年6月11日をもって、(一財)和歌山社会経済研究所の職を退任いたしました。同時に、和歌山地域経済研究機構の職も同様です。研究所では、2004年(平成16年)からスタートし11年間の勤務ということになります。その間、和歌山県唯一のシンクタンク職員として、主に、県内各自治体との協働による地域の振興策・活性化策の策定や提言、人と自然の調和のとれる「まちづくり」ビジョンの提示、地域風土に根差した文化・歴史の探求、また、公表されているさまざまなデータや独自調査の分析による和歌山県の真実の姿の追究など、本当に多岐にわたる活動を行ってきました。実に充実した11年間であったと思っています。

(一財)和歌山社会経済研究所は、県内唯一のシンクタンクとして、その成立経緯からある意味特別な責務を担っています。県内すべての自治体と各種団体及び県内の主だった企業からの出損・人材の協力を仰ぎ、和歌山県の中・長期的展望に立ったビジョンや施策の策定・提言を発信していくというミッションです。いうまでもなくその実現には、幅広く深い知識と経験、これらに基づく深い知見、的確な判断力と行動力、さらには発信力も要求されてきますが、私がこの11年間で最も必要だと感じたものは、少し意外と思われるかもしれませんが、高い“志”を持つということでした。

「何とかして和歌山を良くしよう、この地域に笑顔を、活力を取り戻そう」という強くて熱い意志を持つことがとても重要だと思うのです。何をするにもそうだと思うのですが、どんなに条件が整っていても、その当事者や関係するところが“志＝強くて熱い意志”がなければ、恐らく事はうまくいかないのではないのでしょうか。できるとすれば結果オーライのパターンでしょう。また、所期の目的・目標が高いものであればあるほど、その達成には困難な状況が立ちはだかるでしょう。それを突破するパワーが必ず必要となります。このパワーの源泉の一つが“志”であり、この段階になると“志＝強くて熱い意志＝覚悟”になってくるのだと私は思います。そして、この“志”を関係者が一定以上の高いレベルで共有することが、突破力を強めるのだと思うのです。

現実には、施策・事業の推進や取組の段階においては、ある一定の意志は必ずあるはずで、ないはずはありません。だからその意志のレベルが問題なのです。このレベルの適切な引上げとその維持に焦点を当てた別の仕掛けが必要になってくるのです。これはいわゆるモチベーション(動機づけ)を高める“モチベーター”といわれる人材の出番・

役割となります。事業間や関係者間の調整、会議、研究会の進行の際に使われる、コーディネーターやファシリテーターとは違う役割を持つもので、本来ならば心理学的アプローチが要求されるものですが、その対象分野のある程度の知見を有することも条件となります。特に、当事者及び関係者に対して必要となる、目的の達成に向けた説得と合意形成の局面において大きな役割を果たすものと思われます。

今、国と地方は人口減少と少子・高齢化という課題の解決に向けて「地方創生」による地域が主体となって取り組む施策を推進しています。地方・地域みずからが、生きていくための将来ビジョンづくりに着手したところです。これらを実現するためにはさまざまな要素が必要となるでしょうが、その一つとして“モチベーター”の存在が欠かせないと思います。

(一財)和歌山社会経済研究所は、実はこの“モチベーター”として最も適した存在ではないでしょうか。地方のシンクタンクとして、地域の実情と固有の課題を身近に感じ、幅広く一定の専門的知識と情報・人材ネットワークを有し、かつ、地域政策を担う地域自治体や地域産業の主体者たる企業経営者等との豊富な交流・協働事業を推進しているからです。もちろん、研究機関としての経営とスタッフの研究レベルを高く引き上げることが不可欠でもあります。これらの努力なくしてその高みへは到達できません。より一層の自己研鑽を期待するところです。

(一財)和歌山社会経済研究所を去るに際しての私の強い思いです。

また、和歌山地域経済研究機構は、和歌山大学と和歌山商工会議所、研究所の三者で設立・運営されている非常に有意義な活動です。平成8年7月にスタートし、時宜を得た研究テーマの選定と共同研究ならではの多様なメンバーによる幅広い角度からの研究に取り組み、その成果を報告書や提言としてとりまとめています。さらに、広く住民・関係者にアピールするためにシンポジウム等も随時実施しています。これらの活動により、地域活性化や地域ビジョンの構築などに大いに貢献しているところです。詳しい活動内容は和歌山地域経済研究機構のHPに記載されています。どうか御一覧ください。

最後に、(一財)和歌山社会経済研究所と和歌山地域経済研究機構の関係者各位にお願いがあります。この二つの機関が成立した趣旨—地域のために—を“志”高く掲げ、研究内容を更に充実させるとともに、二つの機関の役割とその成果を今以上にアピール・発信をしていただきたいと思います。内容も充実して間違いなく地域の活力を取り戻し活性化につながる素晴らしい活動を展開しているのです。自信を持って更なる対外発信をしていただきたいと思います。

11年間、多くの方々と出会い、そして支えられ、和歌山の将来のための議論や研究を続けてこられました。自分の脳内に数えきれないほどの刺激をいただき、還暦を過ぎてからも新しい分野へのチャレンジする機会も得ることができました。私の誇りでもあり

ます。

各位、諸氏のおかげをもちまして無事に任期を全うすることができました。

ここに、厚く御礼申し上げますとともに深く感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

“老驥伏櫪 志在千里 / 烈士暮年 壯心不已”

「歩出夏門行／龜雖壽」 曹操 孟徳